

山行報告書

北アルプス：伊藤新道

日 時：2023年9月2日（土）～4日（月）

メンバー：H本、M上、D山

黒部源流への最短ルートであった伊藤新道が40年ぶりに復活したとの情報（一般登山道ではない変化に富んだ面白いルート）に触発されたおじいさん？3人で行ってきた。

9/2（土）晴

新宿朝発で信濃大町駅へここから高瀬ダムまでタクシーで入る。今日の行動は湯俣までなためのんびり山行だ。湯俣のテント場の晴嵐荘へは吊橋を2か所渡るのだが、手前の橋が壊れており、人間と荷物を別々の椅子に乗り自分でロープを引いて渡る方式になっていたが、ここは水量が少ないので浅瀬を飛び石越で渡ることが出来た。

コースタイム：高瀬ダム（12:30）湯俣（15:20）

9/3（日）晴

今日は溪流シューズでのスタートになる、テント場から吊橋と渡渉で対岸の登山道に出て15分ほどで噴気と源泉が湧き出ている河原を進むと、間もなく対岸に玉ねぎの形をした天然記念物の噴湯丘を見送る。ここからが本格的に沢歩きが始まる。昔は5つの吊橋があったそうだが、今は3つの吊橋が掛かっている。今回は濁水であったので膝上程度の渡渉を10回程度で済んだ。また、へつりや高巻き箇所にはロープや足場の鉄棒が整備されていたので、ザイルを持参したが使用せずに済んだ。最上部にある第3吊橋を過ぎると沢の遡行は終わり標識に導かれ急なざれ尾根を登ると平坦部になるが、一度赤沢に下りる。この後が今日一番の核心部ともいえる木登りを交えた急登だ、大汗かいて尾根に出ると傾斜も落ち明瞭な登山道を進むことになる。かぶり岩といわれる大岩からは三俣山荘へ上り気味のトラバス道を進むがへとへとなので思いのほか時間がかかり三俣山荘に着く。途中の枝沢で水を取ることが出来たが、三俣山荘テント場の水場は水流が細く水不足の影響が出ている。

コースタイム：湯俣（4:50）～第1吊橋（9:00）～三俣山荘（14:50）

9/4（月）曇り（一時小雨）

今日も長い行程になるので双六小屋へは三俣蓮華岳・双六岳を通らないまき道ルートを選択、この後鏡平小屋から小池新道途中の秩父沢は水場なのだが干上がっていた。午後から小雨が降ったり止んだりするがあまり濡れずに新穂高温泉に着く。ここで汗を流し平湯経由で帰宅。

コースタイム：三俣山荘（4:40）～双六小屋（7:30）～鏡平山荘（10:40）～新穂高温泉（14:00）



湯俣川の噴湯丘



伊藤新道から見た槍ヶ岳と硫黄尾根

(H本記)